

# 県外派遣報告書

高体連 隈 元 ゆみこ

平成 31 年 3 月 25 日作成

大会名：平成 30 年度 全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会

派遣期間：平成 31 年 3 月 22 日（金）～3 月 24 日（日）

場 所：福岡市総合体育館

## 1. 審判会議（大会初日 8：30～ 審判控え室にて）

①開催県審判長 山崎氏 あいさつ

②ブロック長 福岡氏 あいさつ

鹿児島 IH に向けて 九州ブロックとしての責任  
A 級研修

③IR 紹介（木葉氏・窪田氏）

④全体会議での伝達事項について

インテグリティーについて

九州バスケット宣言について

試合前のサインは、10 分前から 5 分前までに

タイムアウトの請求をはっきりと。タイムアウトあけの協力について

TO トラブルに対して 時計が止まっている時に確認することやお互いの協力

何かあれば、その時に速やかに確認を

審判については、全試合 3 PO クルーでの確認、クルーワーク

処置の訂正等も含め、再度ルールの確認を

コーチとのコミュニケーション（場合によっては TF も必要ではあるが。。。）

## 2. 担当ゲームについて

### <PGC>

各チームのキーとなるプレイヤーや Def、Off の特徴など、お互いが持っている情報やパンフレットに記載されている選手のサイズ、実際にゲームを担当した際に気になったことなど、クルーとして気をつけて捉えるべき点について話をした。また、基本的なメカニクスの確認（積極的なローテーション、CtoC、ポジションアジャスト、STL-TO での対応、バックコート 2 PO すべき場面など）、クルーワークについて（OOB の協力、3 vs 2、クロック管理など）、ガイドラインの確認を行った。まずは、基本的事項についてはしっかりと、そして、3 人の協力で処置ミス等なくゲームを無事に終わらせようという話をしたのでんだ。

### <担当ゲーム>

①3 月 23 日（土） A パート女子 1 回戦：中津北（大分） 対 福大若葉（福岡）

CC:西村（熊本 A 級）、U1：隈元、U2：佐多（宮崎 B 級）

### ゲームの実際

PGC での打ち合わせどおり、速攻時の 3 vs 2 などクルーワークやローテーション等メカニクスにつ

いても比較的うまくいったように思う。両チーム合わせて4人の退場者を出してしまい、ゲーム自体が、どちらが勝ってもおかしくない内容であっただけに、取り上げるべきではなかった判定もいくつかあり、そういった部分で両コーチにストレスをためさせてしまった。また、時間が流れてしまった場面があり、3者集まって情報を得ようとしたが、そういった時に限って3人とも時間を逃しており、正しい時間に戻してゲームを再開することができなかった。常に時計を見る意識をもっと高めていかなければならないと感じた。ベンチに対するコミュニケーションのとり方について、もっと伝え方を工夫していく必要があると感じた。

ゲーム後MTG 主任：伊藤氏（福岡 S級）

試合時間が長くなってしまった原因の一つにファウルの数に関係している。CCMを意識して判定につなげようとする意志は良いが、取り上げるべきであったかどうかについて、このゲームのレベルにあった判定、RSBQとゲームの流れ、キーとなるプレイヤーのファウルの数などを含めて、振り返る必要がある。スローインに対して、3人でどこを捉えるのか？という点への意識が薄いと感じた。

②3月23日（土） Aパート女子2回戦：精華女子（福岡） 対 熊本商業（熊本）

CC：隈元、U1：佐田（大分A級）、U2：岡井（佐賀B級）

ゲームの実際

CCとU1の2人が前の試合と担当試合の間の時間が少なかったため、岡井氏には私の一つ目のゲームでのPGCと一緒に参加してもらい、基本的なことの確認をした。担当試合前の少しの間ではあったが、メカニクスの約束事やチームの特徴などについて3人で確認してゲームにのぞんだ。試合は、精華女子の力が上回るゲーム内容であった。熊商がハイピックを使う場面が多く、ボールがパイプのところでポーズするため、ローテーションについて迷う場面が生じてしまったが、クルーでコミュニケーションをはかりながら、ローテーションを開始すべきところと、そうでないところと共通理解しながらゲームをすすめることができたように思う。

ゲーム後MTG クルーMTG

ローテーションについて、ゲーム途中、クルー間でコミュニケーションをはかり、ハイピックプレイに対応できたことは良かった。プレイヤーのフィジカル差やゲームの流れを考慮し、特に熊商のファウルについて、取り上げなくてもよかった判定がいくつかあった。イリーガルスクリーンに対して、声かけなども含めて、しっかり判定できたことは良かった。ショットクロックが成立した場面で、示すべきは誰であったかということについて、基本的なメカについて再確認した。

③3月24日（日） Aパート女子準決勝：小林（宮崎） 対 福大若葉（福岡）

CC：隈元、U1：副島（福岡A級）、U2：小川（宮崎A級）

ゲームの実際

小林のディフェンス力、シュート力が上回るゲームであった。1Qで、それぞれがしっかりプライマリでの判定を示すことによりテンポセットでき、ゲームがクリーンにすすんでいった。その中で、小林の身体の寄せ方、お互いのリバウンド争いについて整理すべき場面がいくつかあった。また、誰が判定したほうが説得力のあるものとなったのか、特に後半になってそういった場面があらわれてきたので、その点について映像をもとに検証する必要がある。

ゲーム後MTG 主任：福岡氏（長崎 S級）

メカニクスについては比較的うまくいっており大きく気になる点はなかった。1Qでのテンポセットがうまくできていたので、それを後半にも続けられるとよかった。点数がひらいたゲームにはなったが、特に後半、リバウンドやルーズボールのところで判定すべきプレイがいくつかあった。また、誰が吹くべきであったか、セカンダリーとして判定するのは良いが、自分のプライマリでの判定がこぼれてしまうのは良くないので、まずは自分のプライマリでの判定をしっかりと。

※1Qのみ、映像を見ながら、いくつかの現象について、良かった場面や気になるケース（後方からのPushなど）について、何故判定につながらなかったのか、次に判定すべきは誰だったのかといったことを検証することができた。

### 3. まとめ

今回の九州高校は、鹿児島IHへ向けた九州ブロックのノミネートや強化を含めたA級研修会という位置付けでもあり、開催ブロックである九州審判員の一員としての責任を感じた。

メカニクスなど基本的なことはそれぞれ理解し、体現できるようになってきているので、その中で、クルーワークをどのように発揮していくか、プライマリエリアとアングルをしっかりと理解した上で判定にどう繋げていくか、吹くタイミング、吹いた時の位置も含め、もっと研鑽が必要である。

福岡県審判委員会の方々が、全試合映像を撮影してくださったことは、非常にありがたく、これらの映像をしっかりと検証・分析して、次に繋げていきたい。

今後の大きな課題は、ベンチコントロールをどのようにしていくか。コーチとのコミュニケーションの取り方や伝え方も含め、色々な引き出しを準備しておくこと、インテグリティ精神の考え方に基づいて、振る舞いに対する判定をどのように捉えるか、TFの適用含め勉強していく必要があると感じた。（コーチの特徴や選手を鼓舞するための声かけとそうではないものの区別なども含めてどのように伝えるのか悩ましいところであった）

今回の派遣にあたり、大変お世話になりました福岡県バスケットボール協会の皆様、A級研修のIRとしてアドバイスいただいた木葉氏や窪田氏、派遣に際して色々とお配慮いただいた原田審判委員長はじめ鹿児島県審判委員会の皆様に感謝し、報告いたします。ありがとうございました。